

ることを断っておく。

東京タワーにおいて観測された瞬間最大風速の表を風速を5m/秒きざみにし、小河原氏の方法をつかって、200年間に期待される瞬間最大風速を計算すると68.5m/秒となった。もっとも観測期間は1959～1966年の8か年間にすぎないので計算結果は余り信用できない。

以上を要約すると、東京での瞬間最大風速としては、地上では50m/秒程度、地上50m乃至250mの上空では70～75m/秒程度であると考えられる。

なお、東京の250mまでの強風が、南風であることの多いのは、東京付近の地形のためでもあるが、台風の進路とその東側および西側における強風の特徴とも関係があると思われる。

台風の進路の右側は危険半円といわれ、風が強いことはよく知られている。ところが、この傾向は gusts にも成立している。第5図には、伊勢湾台風の進路と、その右側および左側の風向の変化と、観測された瞬間最大風速を図示してある。資料は伊勢湾台風調査報告(気象庁技術報告, 1961)から採った。台風進路の右側では、風向は時計廻り(NE—E—SE—S—SW—W)にかわり、gustsは非常に強く、50m/秒以上の瞬間風速を記録しているところが、かなりある。進路の左側では、風向は反時計廻り(NE—N—NW—W)にかわり、gustsも強い

が東側半円ほどでないことがわかる。しかも、東側のつよい gusts も大体南寄りの風向になったときに起ることがわかる。こうしたことが、東京での強い gusts が、風向の南のときに起ることの多いのと、若干関連していると思われる。

参考文献

- 1) 中央気象台統計課, 1954: 日降水量 Return Period の計算法, 電力気象連絡会彙報第2輯第3巻 9-31頁.
- 2) Hydrometeorological Section, U.S. Weather Bureau, 1954: "Characteristics of United States Hurricanes Pertinent to Levee Design for Lake Okeechobee, Florida" Hydrometeorological Report, No. 32.
- 3) 気象庁技術報告第7号, 伊勢湾台風調査報告, Mar. 1961.
- 4) 前川甲陽, 年次不詳: 都市における風速の垂直分布について(東京タワーの場合). 竹中建築技術研究所報告, 付図共12頁.
- 5) 太田芳夫, 1961: 地上250mの風速計, 科学朝日1961年4月号42-47頁など.
- 6) 斎藤練一, 井上恵一, 1957 a: 日本各地の最大瞬間風速の分布, 気象庁研究時報9巻1号51-55頁.
- 6) 斎藤練一, 井上恵一, 1957 b: 10分間平均風速による暴風の記録, 気象庁研究時報9巻3号195-202頁.

理事会だより

第14期 第12回常任理事会

日時: 7月14日(金) 15時—18時30分

場所: 気象庁第2会議室

出席者: 畠山, 三宅, 岸保, 桜庭, 小平, 北岡, 吉野, 神山, 大田, 須田, 朝倉, 根本(順不同)

議題

1. 定かんの改正について

(1) 会費値上について

事務局強化(事務局員, 編集関係・1名), 集誌(72頁), 天気(120頁)の増頁をするために、会費を値上する。従来の上上げの例をみれば、今回の値上率は不当なものはないと思われる。

さらに、A会員, B会員のバランスも考え、外国在住会員については、小平, 桜庭, 両理事の間で、具体的な数字を算出し、これらを基にして常任理事会の原案を庶務及び会計理事で作成する。

また、団体会員の会費は40%, 賛助会費は5割

程度の値上をする。

定かんの改正は来年度から実施する。

- (2) 外国国籍の通常会員を社員としてよいかどうかに就いては文部省の意見を聞いた上で決定する。
- (3) この改正は来年度から実施する。

原案をさらに整理した上、地方理事, 地方支部に資料を送り、8月の全国理事会までに意見をまとめる。P.R. 用として気象学会と同規模の他学会の機関紙の頁数, 会員数, 会費等をしらべる。

2. 秋の大会(略)

3. 会員カード

会員カードの原案に就いて説明あり更に全理事個々の意見を聞くことになった。

4. 全国理事会 8月24日(木)に行なう。

5. 発明協会より依頼のあった発明賞の候補者に小林寿太郎氏を推せんすることにきまった。